

## 洞爺湖有珠山ジオパークの小中学生、高校生と連携した ソーシャル・ディスタンシング事業

### Stay-at-home Project with Local Students in Toya-Usu UNESCO Global Geopark

\*加賀谷 にれ<sup>1</sup>、畑 吉晃<sup>1</sup>、加藤 明人<sup>2</sup>、黒田 聖乃<sup>2</sup>、高木 孔希<sup>2</sup>、岩村 和磨<sup>2</sup>、北田 夏奈子<sup>2</sup>、富田 浩輝<sup>2</sup>、塩野谷 美奈<sup>2</sup>

\*NIRE KAGAYA<sup>1</sup>, Yoshiaki Hata<sup>1</sup>, Akihito Kato<sup>2</sup>, Kiyono Kuroda<sup>2</sup>, Koki Takagi<sup>2</sup>, Kazuma Iwamura<sup>2</sup>, Kanako Kitada<sup>2</sup>, Koki Tomita<sup>2</sup>, Mina Shionoya<sup>2</sup>

1. 洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会、2. 伊達緑丘高校

1. Toya-Usu UNESCO Global Geopark Council, 2. Date-Midorigaoka Highschool

新型コロナウイルスが猛威を振った2020年、私たちの地域では過去に例のないヒグマの出没も相次ぎ、集合型の行事や野外活動がほとんど実施できない状況でした。

そのような状況の中で取り組んだ、リモート（ソーシャル・ディスタンシング）型の活動と、その中で特に力を入れた、地元小・中学生、高校生と共同で実施した教育活動「みんなでつくろう！洞爺湖水中模型！」について紹介します。

この事業は、洞爺湖観光情報センター内、ジオパークと大地の恵み展の展示物として、1/1,000スケール（1.3m×1.3m）の洞爺湖湖底地形の模型を、地域の児童、生徒と作るものです。

積層モデルのパーツ148枚（37層×4分割）を、「ステイホーム・イベント」として、参加者が自宅で加工し提出する第1段階、伊達緑丘高校の地理コースの生徒を中心に、組み立てチームを結成し、組み立てと塗装を行った第2段階、その後の展示と、高校生による研究発表を行った第3段階まで、9ヶ月にわたり実施しました。

専門の業者に依頼すれば、設置して終わりの地形模型を、地域の参加型イベントとして丁寧に実施することで、のべ150人（およびその家族）の参加が得られました。皆で作った模型が、ジオパークのシンボリックな展示物として今後も利用できることもまた成果です。今後はさらに、この模型を使って地域の地形の形成史と、地質災害のリスク軽減について学ぶ教育に利用する予定です。

新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、人の価値観や、情報の流れは大きく変容すると考えられています。これからの世界（社会）に、ジオパークが何を必要とされ、どのような役割を果たすことができるのかを考えるために、各地域で「コロナ後の世界」を意識し実践された多様な活動は、多くのアイデアやヒントを与えてくれます。

私たちジオパークは、JGN,APGN,GGNという国内外のネットワークを持っていますが、このネットワークの意義は、個々の地域特性を踏まえた多方面のチャレンジを同時に進める多様性と、その多様な活動で得られた「失敗」や「成功のノウハウ」を、ジオパークを推進する仲間同士で共有できる一体性にあると考えます。多様なチャレンジの一つとして、当地域のトライアンドエラーと成果を共有します。

キーワード：ジオパーク、地形学、減災教育、ESD

Keywords: Geopark, Geomorphology, Disaster Risk Reduction Education, Education for Sustainable Development